

## 学生との協働による防災を意識した コミュニティ・スポーツ形成に向けての取り組み

橋本 剛幸<sup>1)</sup>

Action for the community sports formation being aware of disaster prevention by the  
collaboration with the students.

Yoshiyuki HASHIMOTO

### 1. はじめに

1995 年阪神・淡路大震災、2011 年東日本大震災、そして今年 4 月に起きた熊本地震など自然の前に人間の無力さを目の当たりにしてきた。建物や道路の崩壊は防ぎようのないこともあるが、人的な被害ゼロをめざすことは、このような環境の日本列島に住む人間としての大きな願いである。地震など災害に対して避難するためには、体力が必要である。自分の命はまず自分で守ること（自助）は災害時の基本であり、そのうえで周りの人々と協力をして避難すること（共助）が人的被害ゼロをめざすうえで重要である。地域の人たちのつながりも重要であることを過去の教訓から学び、そのいずれも会得した街を作っていくことが重要であり、防災における自助、共助の観点は、健康<sup>(註)</sup>のために個人の体力を向上させ、周りの人々とスポーツを楽しんで行うコミュニティ・スポーツのめざす方向と一致したものである。人と人とのつながりが希薄になっている現在、みんなでスポーツを楽しむことは個人の健康や体力向上だけでなく、精神的な効果や地域の人たちのつながりや協力する意識を高める効果も期待できる。このような地域にコミュニティ・スポーツを根付かせることは、住民の健康だけにとどまらず、災害に対する備えという観点からも重要である。

本大学は和歌山県北部の紀の川市と岩出市の境目に位置している。ちょうど本学の下に中央構造

線が位置しており、また和歌山県は、近い将来に起こると言われている南海地震の影響も大きいとされている。地震がいつ起こってもおかしくない状況の中で、自宅から通う学生も多いが、立地的に一人暮らしをしている学生も少なくない。熊本地震においても、大学の寮が被害を受け、一人暮らしをしている学生が犠牲となったことは記憶に新しい。また、そのような悲しい状況の中で、学生たちが協力して地域の人々の避難生活を支えたことも記憶に残っている。災害時、大学が地域に対して何ができるのか、学生たちが地域の人々と協力して避難生活を支えていけるのかということも非常に重要なことであるが、起きる前から地域の人々とのつながりを持っていることは、その力を何倍にもする原動力となりうるものであろうと考える。筆者もアンケート調査などをもとに、災害が起こる以前の意識づくりの重要性を示し、スポーツへの意識と防災への意識の融和の考えから災害における自助と共助の結合による相乗効果について述べている（橋本、2016）。また、岩佐（2008）は、自然災害にかかわる文化を視座として、「治山治水は国の仕事」を検証し、さらに行政が目指す災害時の「自助・共助・公助」の意味や、そこから見えてくる「ボランティア活動」や「まちづくり」について検討している。その中で、「ルソーのいう市民社会を実現するための自助・共助を実現するための一つの方策としての『ボランティア活動』を見直す必要もある。『共助』の

1) 近畿大学生物理工学部 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930  
Faculty of Biology-oriented Science and Technology KINDAI University 930 Nishimitani, Kinokawa City, Wakayama 649-6493, Japan

一端としてのボランティア活動は極めて深い意味を持つものとなる。」と述べている。学生が、その地域に住んで生活をする住民であるという意識を持ち、街づくりに貢献していくことは重要である。しかしながら、ただ単にボランティアとして協力するだけでなく、地域に住む若い住民として、どのように地域の人々に対して働きかけができるか、スポーツによって年代や性別などを越えてつながりを深めるためにどのようなイベントやプログラム、持続していくためのシステムを創っていくことが必要かを学生たちが自分たちで考えて、実現させることがさらに重要であろうと考える。

これらのことを踏まえ、本研究では和歌山県岩出市におけるスポーツへの意識と防災への意識の融和をめざした地域コミュニティ・スポーツの創造を目標に、学生との協働によるコミュニティ・スポーツづくりを行うため、地域におけるスポーツイベントを企画・実施し、その参加者のアンケート調査から検討を行い、自然災害に強い街づくりにつなげていくことを目的とするものである。

## 2. 研究方法

スポーツイベントを実施するにあたり、このスポーツイベントの趣旨に賛同する学生の有志と共に実行委員会を立ち上げ、企画・運営を行った。この実行委員会における内容を映像及び音声で記録し、その過程で学生たちがどのように考え、議論し、スポーツイベント実施に向けて進んでいくかを整理し、学生たちのスポーツへの意識や地域の人々への意識、防災への意識などについて検討を行う。

また、スポーツイベント当日、2016年8月11日（木 山の日）、参加者に受付の際にアンケート用紙を配布、閉会式後に回収する方法で無記名のアンケート調査を行った。アンケートは一般参加者と学生参加者（スタッフも含む）とで年齢や参加動機など、一部内容の異なるものを配布し、別々に回収を行った。アンケート内容については

先に述べた2種類があり、項目も多いため、「7. 参考資料」で示した。アンケート冒頭にはこのイベントの狙いについての文章をつけ、あらためて口頭でも説明を行った。その結果を踏まえ、さらに継続して実施していくためのPDCAサイクルに基づく分析・検討を行い、新たな課題づくりを行う。なお、アンケート内容については、深い検討を加えなかったため、信頼性についてやや疑問が残るため、今後実施する際に検討を加える必要があると考えられる。

## 3. スポーツイベント実施に向けた経緯と実施後の反省

### (1) ねごろスポーツフェスティバル実行委員会

#### ① 予備打ち合わせ

2016年6月17日（金）12:15～12:50

近畿大学生物理工学部、著者の研究室において実行委員会立ち上げに向けた予備打ち合わせを行う。参加者は本学学友会会長（男子）、本学学生健保共済会代表（女子）、本学事務職員学生担当、著者の計4名で、スポーツイベントの趣旨説明を行い、協力を要請する。学友会、健保共済会共に地域におけるイベントを行いたいという希望を持っていたこともあり、協働でスポーツイベントを行うことで一致した。一度それぞれの団体へ持ち帰り、スポーツイベントの内容についての原案を作り、次回企画を担当する数名と共に実行委員会を行うことを決定した。

#### ② 第1回実行委員会

2016年6月27日（月）18:00～19:00

本学演習室Vにおいて、学友会2名（共に男子）、健保共済会1名（女子）、著者の4名で行う。実行委員会メンバーについては学友会4名、健保共済会3名と著者の8名で行うことになった。イベントの趣旨について、資料も準備し、詳しく説明を行った。学生の事前の打ち合わせによる原案が発表され、8月11日（木、山の日）に根来小学校で行いたいとの希望が出された。日程、場所については学生が集まりやすいことを考

慮し、第一候補として決定した。時間については10:00 スタート、15:30 終了の原案が出されたが、昼食のことや種目も考慮し、再検討とした。種目については、防災の意識を考慮して、キャタピラリレー、バケツリレー、お玉リレーなどが提案されたが、直接防災に関係する種目でなくとも、みんなで一緒に防災を意識しながらスポーツを楽しむことで趣旨は達成できるという考えから、ドッジビー、台風の目、大縄とびの3種目に決定した。また、次回も継続して実施する際に新種目として行うことを考慮し、キンボールをデモンストレーションとして行うこととした。参加者募集については学生にはビラ、ポスターで行うこととした。第1回ということもあり、また人数も少なかったこともあって、まだ熱の入った議論とまではいかなかったが、趣旨に関しての理解はかなり深まっていることが感じられ、前向きに取り組んでいこうとする学生の姿勢が見られた。

### ③第2回実行委員会

2016年6月30日(木)18:10~19:25

本学演習室Vにおいて、学友会4名(男子3名、女子1名)、健保共済会3名(全員女子)、著者の8名で行う。企画を行うメンバーすべてがそろっての初めての委員会となった。調整の結果、第一候補であった8月11日(木、山の日)に根来小学校の体育館で開催が決定した。ビラ、ポスターの作製を学生の方に依頼した。学生の募集については、7月6日(水)に行われるクラブ・サークルの代表者会議で呼びかけを行い、ビラ配り、授業(教職科目、体育・スポーツ系科目)での呼びかけ、ポスター掲示で行うこととした。暑い時期でもあり、昼食などのことも考慮し、9:00から13:00の予定で進めることとした。体育館の大きさ、時間、参加人数を考慮し、競技の進行方法について時間をかけて検討した。参加人数については学生60名、一般60名の120名を理想としたが、実際には100名程度の想定で行った。参加人数の把握、チーム編成を考えると事前の申し込みを行う方がやりやすいが、今回は事前申し込みを行わず、当日来た人に受付時、ドッジビー、台

風の目、大縄跳びのうち参加希望を聞き、希望の種目に参加してもらい、開会式終了までにスタッフでチーム編成を行うこととした。学生については、チラシ・ポスターに記載したアドレスへのメール申し込みとしたが、当日の参加も可とした。競技時間をドッジビー60分、台風の目30分、大縄跳び30分とし、ドッジビーと台風の目の間で、キンボールのデモンストレーションを行うこととした。各種目の競技方法については次回検討することとし、今後毎週木曜日に委員会を行うことを決定した。今回の委員会では、メンバーが全員そろい、具体的な話し合いができたので、かなり熱の入った話し合いになった。特に申し込み方法や、種目の進め方などについては時間をかなりかけて話し合いが行われた。



写真1 学生募集用チラシ・ポスター

(チラシについては学生に配布用には7月5日に出来上がり、クラブ・サークル代表者会議に間に合い、配ることができた。スポーツイベントの名称を「ネゴロススポーツフェスティバル」に決定した。)

### ④第3回実行委員会

2016年7月7日(木)18:00~19:20

本学演習室Vにおいて、学友会4名(男子3名、女子1名)、健保共済会2名(全員女子)、著者の7名で行う。実行委員会の名称を正式に「ネグロススポーツフェスティバル実行委員会」とし、正式メンバーは学友会4名(男子3名、女子1名)、健保共済会5名(男子1名、女子4名)、著者の10名で組織することとした。岩出市スポーツ推進委員会が共催として参加してもらえることになり、一般用チラシ・ポスターに記載することとした。当初、名称において「ネグロ」とカタカナを用いていたが、地域に同じカタカナ表記のスーパーがあり、誤解を招く恐れがあり、柔らかな感じを出す効果も考え、「ねごろ」とひらがなに修正を行った。具体的に各種目の競技方法の検討を行い、それに基づいて必要な役割を決定し、運営スタッフの人数の想定を行った。競技ルールについても共通理解できるように次回までにまとめることにした。また、準備しなければならない用品・備品をリストアップし、確認を行った。かなり内容的に細部にわたる議論になり、参加委員全員が活発な意見交換を行い、有意義な委員会となった。委員会メンバーの意識も高く、何とか良いイベントを行おうとする気持ちが伝わってくるものであった。

#### ⑤第4回実行委員会

2016年7月14日(木)18:00~18:40

本学演習室Vにおいて、学友会3名(男子2名、女子1名)、健保共済会4名(男子1名、女子3名)、著者の8名で行う。一般用チラシの修正を行い、完成させた。チラシ、ポスターを使って、一般の募集に向けたやり方を検討した。体育館の下見を行い、体育館の大きさなどの写真をもとに、再度競技のやり方などのチェックを行った。当日までの予定として、7月21日(木)を事前実行委員会の最後とし、8月6日(土)、9日(火)の両日でスタッフ全体ミーティングを行い、用品チェック、競技の予行練習、全体シミュレーション、積み込み作業を行うこととした。当日のスタッフ集合を8:00と決定した。

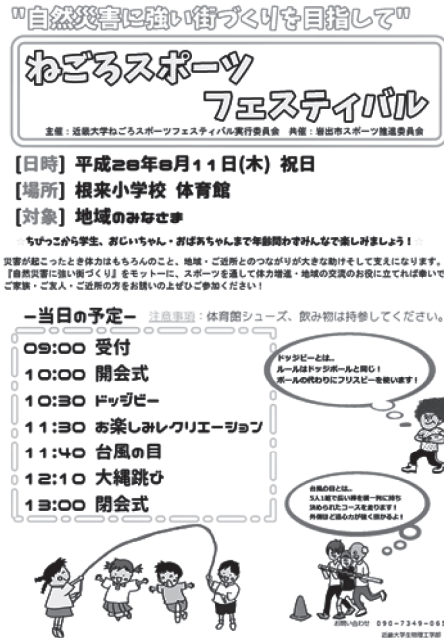


写真2 一般募集用チラシ・ポスター

#### ⑥第5回実行委員会

2016年7月21日(木)18:00~19:40

本学演習室Ⅶにおいて、学友会4名(男子3名、女子1名)、健保共済会4名(男子1名、女子3名)、著者の9名、実行委員会全員で行う。完成したポスター、チラシを現地の根来小学校、岩出市役所、岩出総合体育館に掲示、配布を行ったことを報告した。また、根来小学校の全校児童に終業式の日にチラシを配布することができたことを報告した。根来小学校周辺のスーパーマーケットなど商業施設のどこにポスター掲示をお願いするかを決定した。

当日のタイムテーブルに基づいて、開会式、閉会式の段取り、準備物などの確認を行う。当日の駐車場および駐輪場、受付の場所の決定し、人の流れなど開始までの段取りを確認した。受付のやり方について議論をしたが、多くの時間を費やした。受付名簿をどのように作るか、チーム編成をどのように行い、競技運営をどのように行うかなど詳細について決定した。特にチーム編成につい



学生との協働による防災を意識したコミュニティ・スポーツ形成に向けての取り組み

ては、かなりの時間をかけて議論を行い、年齢、性別などを考慮し、受付時に順番に4チームに振り分け、A・B・C・Dの4種類のカードを配布してチーム編成を行うこととした。これに基づいて各種目チームを分け、不参加が出た種目についてはその種目開始時に人数の調整を行うこととした。学生たちのきめ細かな考え方が出た議論が展開され、イベントに向けた真剣さが感じられた。



写真3 掲示されたポスター



写真4 ねごろスポーツフェスティバル実行委員会

⑦第1回スタッフ打ち合わせ

2016年8月6日(土)13:00~16:30

本学演習室Vにおいて、学生21名(男子9名、女子12名)と著者の22名でスタッフ打ち合わせを行う。初めて実行委員以外のスタッフが集まっ

ているため、今回のスポーツイベントの趣旨を話し、意識付けを行う。既に実行委員からそれぞれ説明はなされていたが、さらに意識を高めてもらうことが重要であり、本研究の重要なポイントであるため、少し時間をかけて行った。その後、事前に作成した当日のシミュレーション表を資料として配布し、当日のシミュレーションを行う。質問も受けながら競技内容、進め方、当日の流れなどすべてにおいて共通理解を行い、徹底を図った。当日スタッフは27名を予定していたので、6名が欠席していたが、このスポーツイベントの趣旨を十分に理解し、意識を高めることができた。また当日は、運営を確実にすることも重要だが、自分たちも参加者として地域の人々と交流を深め、楽しむことも必要であることを共通理解した。その後役割分担を行い、当日のスタッフ一人一人の動きを確認した。打ち合わせがすべて終了したのち、場所を体育館に変えて、用具類の確認とすべての競技を試行的に行った。安全面や競技のスムーズな進行のため、コートの大きさや用具の使用方法などを確認しながら実際に競技を行った。特にキンボールについては全員が初めて行うため時間をかけて行ったが、学生には非常に好評であり、今後新種目として採用する可能性を感じさせる競技であった。



写真5 スタッフ打ち合わせ

⑧第2回スタッフ打ち合わせ

2016年8月9日(火)10:00~11:30

実施前最後の集まりであったが、準備物の最終チェックと車への積み込みであるため10名程度

のスタッフで行った。

〈実行委員会全体を通して〉

スポーツイベント当日までの実行委員会は、6月17日の事前打ち合わせから約2か月間で8回行った。開催までの期間が短かったとも思われるが、大学の前期試験や夏休みの日程を考えるとやむを得ないところがあった。かなりきつい日程の中で、学生たちの前向きな姿勢と、イベントを成功させたいという強い気持ちが実施できた原動力であったと思われる。イベントの趣旨についてもリーダーとなるメンバーがしっかりと他のメンバーに伝え、高い意識で本番に望めたことは本研究の狙いからも高く評価できることである。

## (2) ねごろスポーツフェスティバル（スポーツイベント当日）



写真6 イベント当日スタッフ打ち合わせ

2016年8月11日（木、山の日）和歌山県岩出市立根来小学校体育館において、「ねごろスポーツフェスティバル」を開催した。予定していたタイムテーブルは次の通りである。

9:00 受付  
10:00 開会式  
10:30 ドッジビー  
11:30 お楽しみレクリエーション（キンボールデモンストレーション）  
11:40 台風の目  
12:10 大縄跳び  
13:00 閉会式  
スタッフは、27名全員8:00に集合し、準備を

行った。

やや暑い日であったが天候にも恵まれ、多くの参加者を期待したのだが、受付を行った一般参加者は27名と予定していた人数よりはるかに少ない参加であった。



写真7 イベント受付

当日、学童保育で登校していた児童とその指導者にも参加を呼びかけ、最終的には35名の参加であった。また、学生については事前申し込みが6名であったが、当日実際に参加したスタッフ以外の学生は4名であった。学生にとっては前期試験が終わり、夏休みに入ってしまう祝日でもあり、帰省した学生も多く、かなり予定を下回った。受付開始からチーム分けなどに時間がかかるという予想であったが、参加者が少なく、予想に反したため、スタッフの一人の発案で、受付後スタッフと参加者でドッジビーに使用するフライングディスクを使い、ウォーミングアップを兼ねて自由に練習をしてもらうことに急遽変更した。参加者が少ないことから、これもスタッフの発案で、急遽近くのスーパーなどに出向いて宣伝活動を行うこととなった。また、タイムテーブルについても、スタッフができる限り参加してもドッジビーのチームが2チームとなり、試合数が少なく、それほど時間を要しないため、先にキンボールのデモンストレーションを行い、キンボールを一般参加者にも参加してもらうことに変更をした。タイムテーブルの変更で、キンボールの準備が間に合わず、また、参加していた子供たちがスタッフと仲良くなり、非常に楽しくフライング

学生との協働による防災を意識したコミュニティ・スポーツ形成に向けての取り組み

ディスクで練習を行っていたため、開会式後もフライングディスクでの自由練習時間を延長して行った。変更後のタイムテーブルは以下の通りである。

- 9:00 受付  
フライングディスク自由練習
- 10:00 開会式  
フライングディスク自由練習
- 10:20 お楽しみレクリエーション（キンボール  
デモンストレーション）
- 10:25 一般参加者も参加してのキンボール
- 10:50 ドッジビー
- 11:40 台風の日
- 12:00 大縄跳び
- 12:30 ドッジビー（参加者のリクエストにより）
- 12:50 閉会式

まず開会式において、このスポーツフェスティバルの趣旨を説明し、終了後のアンケートの協力を求めた。「自然災害に強い街づくりを目指して」というキャッチフレーズを理解してもらうことが重要であり、その成果が得られているかを評価することが必要であるため、できるだけわかりやすく説明を行った。

キンボールについては当初の予定ではデモンストレーションのみであったが、人数を多くし、正式なルールに則ったゲームではないものの、ボールの感触やゲームの面白さを体験してもらうにはよい企画となった。今後のイベント開催に向けて新種目として取り入れる可能性が強く感じられた。



写真8 キンボール



写真9 ドッジビー

ドッジビーについては当初4チームの総当たり戦を想定していたが、スタッフも参加した2チームで1試合を時間の許す限り行った。途中スタッフの判断でディスクを2枚にしたことも功を奏し、かなりの盛り上がりを見せた。結果、予定の種目が全部終わったところでまだ時間が余っていたため、参加者のリクエストでもう1試合行うこととなった。小学生から大人までみんなが一緒に楽しんでいる様子から、学生の発案で行うことにしたドッジビーであったが、その選択は正しかったと思われた。



写真10 台風の日

みんなで協力をするという趣旨に基づいて採用した台風の日は、足並みをそろえて走るレースであるが、これについてもかなりの盛り上がりを見せた。当初長い棒を持って走ることから体力差による転倒など危険さの心配もあったが、十分な説明を行い、一番走力のないメンバーにうまく合わ



せながら協力することが出来ており、当初も目的を果たせていたと考えられる。ただ、参加者がそこまでの意識に至っているかは疑問が残るところであるため、今後の改善も必要と思われる。



写真 11 大縄跳び

そのあとの大縄跳びについても、台風の日と同様にみんなと協力する種目として行ったが、人数が少なかったため、やや盛り上がりには欠けた感があった。ただ、うまく飛べないメンバーに声をかけ、配置や縄の回し方など工夫しながら行い、達成感を味わうことが出来ていたと考えられる。声をかけ、励ましあって協力し、達成感を得ることは、このイベントの趣旨からも重要なことであり、台風の日と同様に参加者の意識という点で改善も必要であろう。

全体としていえることは、スケジュール変更に対しての学生の臨機応変な対応と、初めて会った地域の人たちとすぐに溶け込んで一緒に楽しめる柔軟さが非常に印象に残った。以前著者が行った学生へのアンケート分析において、自分が住んでいる付近の人とのつながりがありえないにもかかわらず、災害時には付近の人たちの手助けをして避難できると考える学生が多く、やや疑問に感じると述べたが（橋本、2016）、この柔軟さを見るとその可能性を感じさせられた。ただ、一般学生の参加者が少なく、スタッフに入ろうという意識を持つ学友会や健保共済会のメンバーが多かったため、その特性からの行動であるため、参加者を増やして行ってからの検討が必要であろう。また、地域の人々の参加も少なく、幅広い年齢層の

人々が参加して開催ができなかったのも反省点である。参加者の募集の方法や、開催時期、事前の啓発活動、種目の再検討など多くの課題が考えられる。しかしながら、地域の人々と学生のつながりができ、初めての試みとしては素晴らしいスポーツイベントであった。



写真 12 ねごろスポーツフェスティバルスタッフ

### (3) 第6回実行委員会（実施後の反省会）

2016年8月21日（日）学友会4名（男子3名、女子1名）、健保共済会3名（全員女子）、の7名の実行委員で行ったが、著者が参加できなかったため、後日（9月21日）学友会会長と健保共済会代表の2名から報告を受ける形で反省会を行った。報告の内容は以下の通りである。

#### 〈良かった点〉

- ・スタッフ全員が遅れず全員参加し、当日の役割分担がきちんとできた。
- ・小さい子供の対応がきちんできていた。
- ・当日の臨機応変な対応ができていた。（宣伝活動、タイムテーブル変更など）
- ・キンボールが楽しく、参加者の受けもよかった。
- ・他の小学校でもぜひやってほしいと参加者から言われたのでぜひやりたい。

#### 〈悪かった点〉

- ・ポスターの張った場所の把握が不十分で、回収ができなかった。
- ・割り振られた仕事以外はしないスタッフがいた。
- ・休憩の際の行動がややガラガラしていた。



- ・開催日が悪かったため参加者が少なかった。
- ・名札を付けた方が良かった。
- ・小さい子供にはキンボールは大きくてやりにくそうだった。

以上の報告を受けて、3名で総括を行ったが、まず募集方法の問題が議論となった。ポスター、チラシだけに頼った募集になったため、広く告知ができず、参加者が少なかったことが反省点として挙げられた。SNSなどを利用するなど、もっとつながりを利用した募集の検討が必要である。また、災害に対する意識を高めるために種目の検討も重要であるとの意見が出された。ただ、全体としてスタッフのイベントに対する感触が良く、1、2年生も多く参加していることから、長期的に継続することができるのではないかと考えられ、その必要性も指摘された。学生参加者が少なかったことを考えると、開催時期の検討が必要であり、長期休暇の期間は外した方がよく、また季節などを考慮して、年2回の開催で考えると、7月と10月が理想ではないかと考えられた。今年度、もう一度開催するのであれば、募集期間を長くすることや長期休暇を考慮し、12月がよいのではないかという意見から、その方向で計画に入ることを確認した。

#### 4. アンケート調査結果および考察

一般参加者は受付を済ませた参加者が27名、それ以外を含めて35名の参加であったが、アンケート回答者数は21名であった。学生参加者は31名（スタッフ27名を含む）で、アンケート回答者数は30名であった。

①（一般用）年齢をお答えください。いずれかに○をつけてください。

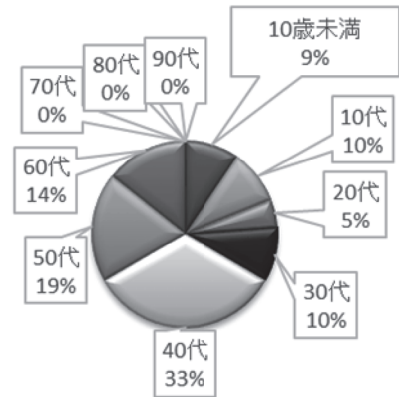


図1 一般参加者年齢

（学生用）学年をお答えください。いずれかに○をつけてください。

この質問に対する回答を図1および図2に示した。両方とも残念ながら少人数であり、一般参加者については年齢層に偏りがあり、特に70代以上がないという結果であった。学生については1、2年生が多く、今後継続して行っていくことを考えれば、期待できるものであった。

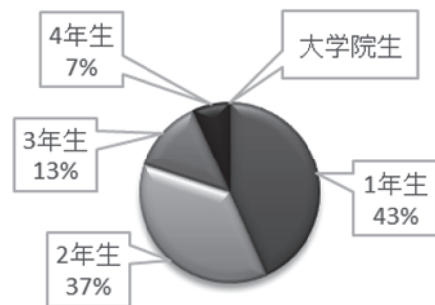


図2 学生参加者学年

②男女別をお答えください。いずれかに○をつけてください。

この質問に対する回答を図3に示した。両方ともやや女性が多かった。

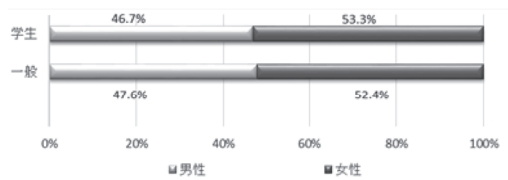


図3 性別

③ (一般用) このフェスティバルを何でお知りになりましたか。いずれかに○をつけてください。

(学生用) このフェスティバルになぜ参加しようと思いましたが。いずれかに○をつけてください。

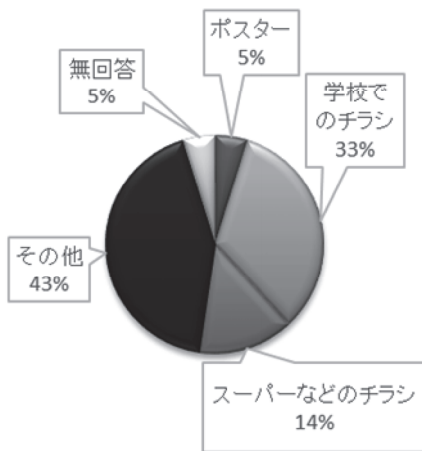


図4 一般参加者何で知ったか

この質問に対する回答を図4および図5に示した。一般参加者については、その他が多く、続いて学校で配布されたチラシ、スーパーでのチラシとなっている。その他の内容は、友人から聞いて、スポーツ推進委員から聞いてなどであった。小学校での配布やスーパーでの配布などチラシの効果もあったが、やはり口コミの効果も重要であることが考えられ、SNSなどの利用など今後の課題である。

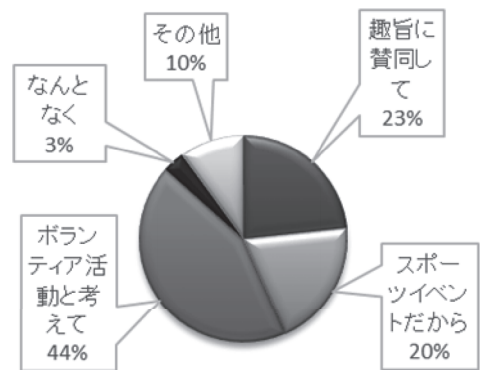


図5 学生なぜ参加したのか

学生については、スタッフが大半であるため、ボランティア活動としての参加が多くなっている、学生のボランティアへの意識は重要であり、災害時には大きな力を果たしている。岩佐(2008)も、「『共助』の一端としてのボランティア活動はきわめて深い意味を持つものとなる。」と述べている。この意識の広がりが大きくなるようなイベントの継続が必要であると考えられる。

④参加して、楽しかったですか。いずれかに○をつけてください。

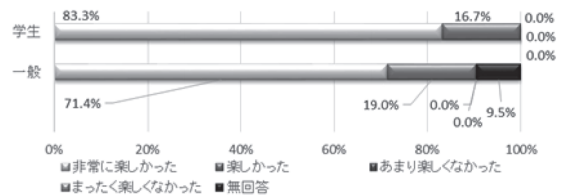


図6 楽しかったですか

この質問に対する回答を図6に示した。ほぼ全員が楽しかったと感じている。この点からはイベントとして成功であったと思われるが、休みの日に出かけてきて参加してもらうことが重要であり、やはり広報活動に対しての課題であろうと思われる。

⑤またあれば、参加したいですか。いずれかに○をつけてください。

学生との協働による防災を意識したコミュニティ・スポーツ形成に向けての取り組み

この質問に対する回答を図7に示した。この質問に関してもほぼ全員が参加したいと回答しているが、種目が変われば参加という回答もあった。今後継続して開催していく中で、種目についての検討も重要な課題である。災害時の体力にかかわるような種目についての検討も必要で、楽しくかつ効果的な種目を取り入れていく必要があるだろう。

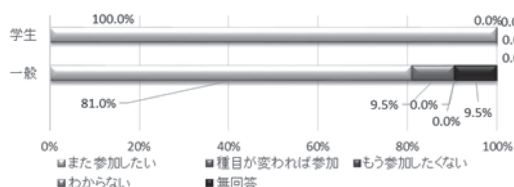


図7 また参加したいか

⑥やってみみたい種目があればお書きください。

この質問に関しては自由記述になっており、以下のような回答があった。

(一般参加者) キンボール、キンボール（正式な形で）、ドッチビー、ドッチボール、サッカー、大玉ころがし、玉入れ、フラフープ、大縄跳び、台風の日

(学生参加者) パン食い競争、球技、キックベース、カバディ、キンボール、借り物競争、大玉ころがし、いす取りゲーム、ぞうきんレース、大声大会、ムカデ競争、二人三脚、棒引き、綱引き

今回行った種目をもう一度やりたいという意見も多く、特にキンボールは高評価であった。学生参加者からも様々な意見が出されており、新たな発想に期待できる。

⑦このフェスティバルの趣旨についてどう思われましたか。○をつけてください。

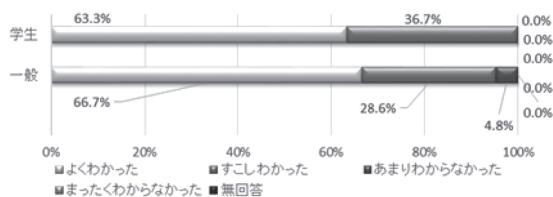


図8 趣旨について

この質問に対する回答を図8に示した。学生に関してはかなりの時間をかけて説明をしてきたことがこのような結果となったと思われる。一般の中にあまりわからなかったという回答が見られる。チラシやポスターだけでなく、ほかの方法も含めて趣旨をしっかりと伝えて参加者を増やす必要があるだろう。

⑧災害時に自分の居住地から一番近い避難場所を知っていますか。

この質問に対する回答を図9に示した。学生に関しては以前のアンケート分析で予想はできたが(橋本、2016)、一般の中においても知らないと答えた参加者が見られる。災害に対する意識を高めていくことは重要であり、このようなイベントをきっかけにしてその意識を高めることも必要であろう。今回はできなかったが、イベントの中で意識を高めるような働きかけを入れることも検討していく必要があるだろう。

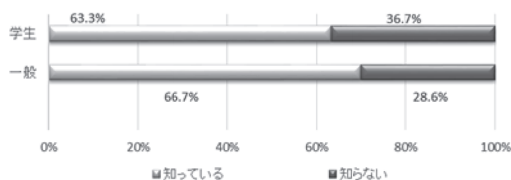


図9 居住地の避難場所を知っているか

⑨その場所（または安全な場所）まで逃げるための自分自身の体力に自信がありますか。

この質問に対する回答を図10に示した。このようなスポーツイベントに参加しようという意識を持っている参加者であるためか、一般参加者ではかなり体力に自信を持っている人が多い。それに比べると学生の方はかなり心配である。女子が多いことや学友会、健保共済会の活動を中心に行う学生で体育系クラブの経験が少ないことなどが影響しているかもしれないが、大学における学生の体力作りも大きな課題であろう。

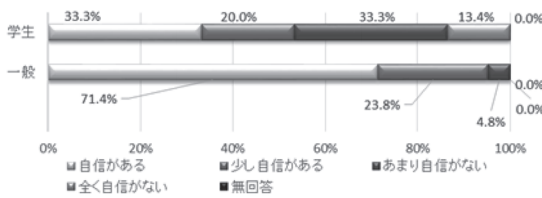


図 10 逃げるための体力

⑩現在住んでいる家の付近の人々と、付き合いはありますか。○をつけてください。

この質問に対する回答を図 11 に示した。学生については前の質問と同様に、以前の調査で予想はできたが、一般参加者についてもややつながりが薄いように感じられる。立花ら（2013）は、「自治会を中心とした地域活動の活性化が、市民の防災意識の向上に有効である」と述べている。日常での周りの人々とのつながりが重要であり、それが災害時、大きな力を生むことになるであろう。

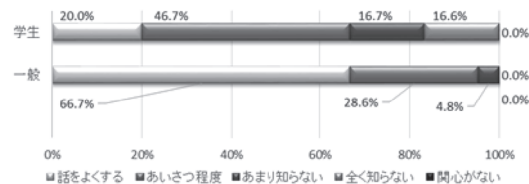


図 11 付近の人と付き合いがあるか

⑪もしも、地震や水害、または火災などが起こった時、周りの人たちと声をかけあったり、助け合って避難することができますか。いずれかに○をつけてください。

この質問に対する回答を図 12 に示した。学生の回答で、20%が「できないと思う」「できない」と答えている。一人暮らしをしている学生にとってはなかなか勇気のいる行動であり、難しいと感じていることが理解できる。ただ、この数を減らしていくことが重要であり、そのための方策を考えることが必要であろう。

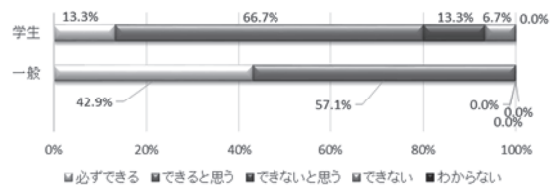


図 12 周りの人々と助け合って避難できるか

⑫このようなスポーツイベントが人とのつながりに役立つと思いますか。

この質問に対する回答を図 13 に示した。参加者全員がこのようなスポーツイベントに対して期待を寄せている。さらに多くの人々の参加を促し、町全体で取り組む行事にしていくことが必要であると考えられる。

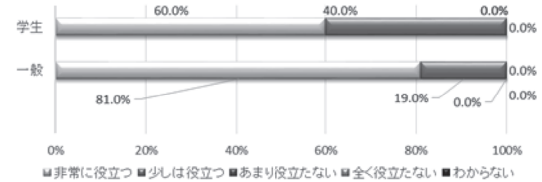


図 13 スポーツイベントが人のつながりに役立つか

⑬人とのつながりを作るイベントについてどう思われますか。

この質問に対する回答を図 14 に示した。学生のその他の回答は、「小規模でも複数あった方が良いと思う」というものであった。ほとんどの参加者がこのような機会があった方が良いと答える半面、「自治会活動で十分」という意見もある。今後自治会活動の調査も行いながら、同じようなものばかりにならず、地域の人々が気軽にいつでも参加できるイベントを作ることが重要であろう。小林ら（2010）は、「町会等が防災に強いコミュニティとなるためには、日常の交流を増やす工夫と共助型の訓練を取り入れて交流と防災の両面を活性化させていくことの重要性を明らかにした。」としている。今の状態で十分と考えず、より回数を増やし、参加できる状況を増やすことも必要であろう。



学生との協働による防災を意識したコミュニティ・スポーツ形成に向けての取り組み

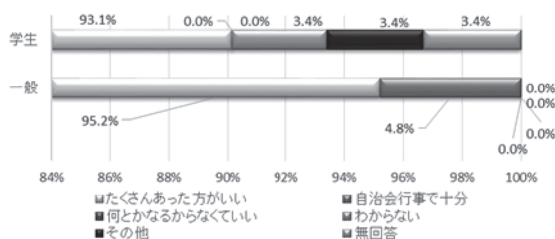


図 14 つながりをつくるイベント

⑭そのほか、ご意見がございましたらご自由にお書きください。

この質問は自由記述で、以下のような回答が得られた。

(一般参加者)

- ・地方からきている学生さんたちや老若男女すべての人がかわりを共有する取り組みがもっとあればいいと思います。
- ・若い人たちのパワーのすごさと大切さを感じました。
- ・都市部に比べて「歩く」「自転車に乗る」のがすごく少ないように思うので、特に大人の体力、持久力が課題と思いました。
- ・ぜひ〇〇小学校にも来てください。
- ・たくさん笑って、動いて、いっぱい汗をかきました。
- ・誰でもできるダンスなどを入れてみては…
- ・災害にかかわるようなタンカ、バケツリレーなどをやってみては…

(学生参加者)

- ・もっと人が集まったら楽しいと思います。
- ・運営として貴重な体験になりました。
- ・春や秋だとやりやすい気温でできるかも。
- ・たくさんの地域の人と触れ合える企画をした。
- ・最初は何でも少人数だと思う。ぜひ続けてほしい。
- ・また開いてください。子供たちと仲良くなれました。
- ・一般の方々にもっと参加していただければよい。

前向きな回答が多く、継続していく必要性を感じた。

特に学生たちの当日の活動に対しては、一般参加者からの評判が良く、ぜひまたやってほしいという意見をたくさんもらうことが出来た。学生との協働で企画から実行まで行ってきたが、十分に目的を果たせたと考えている。

## 5. まとめおよび今後の課題

本研究における大きな狙いである学生との協働によるスポーツイベントの企画・立案、そして実施・運営は、予想以上の成果であったと考えている。学生たちの柔軟な考え方や行動力、臨機応変は対応力など、予想を大きく超える新たな発見であった。また、企画から実施に至るまでの彼らの意識の変化についても、著者の主観的観察ではあるが、当初は自分たちが楽しめるスポーツイベント行うという意識が強かったが、地域の人々とのふれあいやつながりを強く意識し始め、自分たちだけでなく初めて会った地域の子供たちや年上の人たちとも一緒になって楽しもうという変化があった。参加人数が少なく、大成功とまではいかないまでも、第1回目の開催にたどり着いたことは学生たちにとっても大きな自信となっているに違いない。本研究にとっても第一歩をスタートできたことは意味のあることであった。今後この第一歩をきっかけに、試行錯誤を重ね、PDCAサイクルに基づき継続していくことが重要であろう。そして、地域のコミュニティ・スポーツとして定着させていくことが、自然災害に強い街づくりにつながっていくと確信している。

平田 (2011) は、「各町会活動の特徴を整理し、交流が促進されるような仕掛けが十分にあり、防災活動において共助活性化するために有効な仕掛けが十分にある町会は、住民の交流を土台に共助意識も高まり、防災訓練への参加が多く活性化し、防災に強いコミュニティとなっている。」と述べている。既存の活動を十分に理解し、さらにさまざまな取り組みを増やして交流を活性化させることは重要であり、意識を高めるきっかけとなるであろう。災害時において、自分の命は自分守り（自助）、周りの人々と協力し人的被害を最

小限にする（共助）ことは大切である。さらに今回のイベントを通して、地域の人々をつなぐりを深めていくため、行政との協働の必要性を感じた。原岡ら（2009）は、「区長と民生委員が協働して、日ごろからの地域のネットワーク、人間関係、信頼の蓄積が図れるような地域活動を行っていく必要がある。」と述べている。小さなスポーツイベントきっかけに、さらに改善を重ね、多くの人々が気軽に参加できる地域全体の大きなイベントへ展開ができれば、行政を巻き込んだ大きな働き（公助）へつながっていくことになるであろう。それにより、地域に定着したコミュニティ・スポーツとして継続され、自然災害に強い街づくりが実現に近づいていくに違いない。

そのための今後の課題としては次のものが考えられる。

- ・ 募集方法の改善

ポスター、チラシに加え、SNSなど人々の口コミによる拡散方法の検討

- ・ 趣旨やスポーツへの参加の啓発活動

行政などの協力も得ながら、地域の人々への働きかけ

- ・ 実施内容の検討、充実

今回のアンケート調査をもとに実施種目の再考

- ・ 実施時期、場所の検討

参加者増加に向けた実施時期や同じ場所での継続と別の場所での実施の検討

- ・ 地域の自治会活動やスポーツ活動の調査

既存の活動の調査に基づいた実施方法・内容の検討

- ・ 学生の地域活動への積極的な参加

地域の人々とのつながりを深めるための既に行われている行事などへの参加

に安寧な状態であって、単に病気でないとか、虚弱でないとかいうことではない。」とされており、単に肉体的、精神的だけでなく、生活そのものであるという意味を含んでいる。その点からも、人々のつながりを深め、コミュニティ形成は重要であろうと考える。

原岡智子・仲井宏充・尾島俊之・野田龍也・村田千代栄・早坂信哉（2009） 平常時における防災への知識・意識・行動の関連 保健医療科学 58 (3), 277-282

橋本剛幸（2016）スポーツへの意識と防災への意識の融和－学生との協働によるコミュニティスポーツ形成に向けて－ 日本体育学会第67回大会体育社会学専門領域発表論文集第24号, 160-165

平田京子（2011） 共助力向上をめざした防災コミュニティ構築のための研究：文京区町会にみる交流状況と防災訓練の現状 日本女子大学紀要、家政学部 58, 101-110

岩佐峰雄（2008）「災害文化」という視点：「自助・共助・公助」から「まちづくり」へ 人文研究論叢 4, 5-13

小林真理子・平田京子（2010） 防災に強いコミュニティを形成するための地域社会の人的交流のあり方と課題：市民の防災力向上に向けて その33（地域防災力向上（1）、都市計画）学術講演梗概集、F-1、都市計画、建築経済・住宅問題、975-976

立花秀夫・中村和之・川口恵一郎・熊谷 浩二（2013） 防災活動における自助・共助・公助と市民意識：その事例 地盤工学会誌 61(3), 20-21.

平成 28 年 9 月 28 日受付

平成 29 年 2 月 1 日受理

本研究は、近畿大学生物理工学部戦略的研究費（No.15-Ⅲ-38,2016）により行われたものである。

## 6. 注記及び引用・参考文献

（注）世界保健機構（WHO）の健康の定義では、「健康とは身体的・精神的及び社会的に完全

## 7. 参考資料

### 【一般用アンケート】

ねごろスポーツフェスティバルおよび防災に関するアンケート

本日は、ねごろスポーツフェスティバルにご参加いただきありがとうございました。

このスポーツフェスティバルは「自然災害に強いまちづくりを目指して」をスローガンに、一人一人の体力の向上とみんなで協力する意識を高めることにより、自然災害が起こった時に人的被害ゼロをめざして、スポーツが皆様のお役に立てるのではないかと計画して行いました。今後も改善をしながら続けていけるように研究してまいりたいと考えております。答えていただいた内容については研究の目的以外には利用をしません。どうぞよろしくお願いします。

近畿大学生物理工学部 橋本剛幸

- ① 年齢をお答えください。いずれかに○をつけてください。
  - 1 10代    2 20代    3 30代    4 40代    5 50代
  - 6 60代    7 70代    8 80代    9 90代
- ② 男女別をお答えください。いずれかに○をつけてください。
  - 1 男性
  - 2 女性
- ③ このフェスティバルを何でお知りになりましたか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 ポスター
  - 2 学校で配られたチラシ
  - 3 スーパーなどにおいてあったチラシ
  - 4 その他 ( )
- ④ 参加して、楽しかったですか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 非常に楽しかった
  - 2 楽しかった
  - 3 あまり楽しくなかった
  - 4 まったく楽しくなかった
- ⑤ またあれば、参加したいですか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 また参加したい
  - 2 種目が変われば参加したい
  - 3 もう参加したくない
  - 4 わからない
- ⑥ やってみたい種目があればお書きください。
 

( )
- ⑦ このフェスティバルの趣旨についてどう思われましたか。○をつけてください。
  - 1 よくわかった
  - 2 すこしわかった
  - 3 あまりわからなかった
  - 4 まったくわからなかった

- ⑧ 災害時に自分の居住地から一番近い避難場所を知っていますか。
- 1 知っている
  - 2 知らない
- ⑨ その場所（または安全な場所）まで逃げるための自分自身の体力に自信がありますか。
- 1 自信がある
  - 2 少し自信がある
  - 3 あまり自信がない
  - 4 全く自信がない
- ⑩ 現在住んでいる家の付近の人々と、付き合いはありますか。○をつけてください。
- 1 よく知っており、話しをよくする
  - 2 知っているが、あいさつする程度
  - 3 あまり知らない
  - 4 全く知らない
  - 5 関心がない
- ⑪ もしも、地震や水害、または火災などが起こった時、周りの人たちと声をかけあったり、助け合っ  
て避難することができますか。いずれかに○をつけてください。
- 1 必ずできる
  - 2 あまり自信はないが、できると思う
  - 3 あまり自信がなく、できないと思う
  - 4 できない
  - 5 わからない
- ⑫ このようなスポーツイベントが人とのつながりに役立つと思いますか。
- 1 非常に役立つと思う
  - 2 少しは役立つと思う
  - 3 あまり役立たないと思う
  - 4 まったく役立たないと思う
  - 5 わからない
- ⑬ 人とのつながりを作るイベントについてどう思われますか。
- 1 たくさんあった方がいいと思う
  - 2 地域の自治会などの行事があるから十分だと思う
  - 3 あまりなくてもその時にあればなんとかなるのでいらないと思う
  - 4 わからない
  - 5 その他（ ）
- ⑭ そのほか、ご意見がございましたらご自由にお書きください。  
( )

ご協力、ありがとうございました。



## 【学生用アンケート】

ねごろスポーツフェスティバルおよび防災に関するアンケート（学生用）

今日は、ねごろスポーツフェスティバルにご参加いただきありがとうございました。

このスポーツフェスティバルは「自然災害に強いまちづくりを目指して」をスローガンに、一人一人の体力の向上とみんなで協力する意識を高めることにより、自然災害が起こった時に人的被害ゼロをめざして、スポーツが皆様のお役に立てるのではないかと計画して行いました。今後も改善をしながら続けていけるように研究してまいりたいと考えております。答えていただいた内容については研究の目的以外には利用をしません。どうぞよろしくお願い致します。

近畿大学生物理工学部 橋本剛幸

- ① 学年をお答えください。いずれかに○をつけてください。
  - 1 1年生    2 2年生    3 3年生    4 4年生    5 大学院生
- ② 男女別をお答えください。いずれかに○をつけてください。
  - 1 男性
  - 2 女性
- ③ このフェスティバルになぜ参加しようと思いましたか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 趣旨に賛同して
  - 2 身体を動かすスポーツイベントだから
  - 3 ボランティア活動と考えて
  - 4 なんとなく
  - 5 その他 ( )
- ④ 参加して、楽しかったですか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 非常に楽しかった
  - 2 楽しかった
  - 3 あまり楽しくなかった
  - 4 まったく楽しくなかった
- ⑤ またあれば、参加したいですか。いずれかに○をつけてください。
  - 1 また参加したい
  - 2 種目が変われば参加したい
  - 3 もう参加したくない
  - 4 わからない
- ⑥ やってみたい種目があればお書きください。
 

( )
- ⑦ このフェスティバルの趣旨についてどう思われましたか。○をつけてください。
  - 1 よくわかった
  - 2 すこしわかった
  - 3 あまりわからなかった
  - 4 まったくわからなかった

- ⑧ 災害時に自分の居住地から一番近い避難場所を知っていますか。
- 1 知っている
  - 2 知らない
- ⑨ その場所（または安全な場所）まで逃げるための自分自身の体力に自信がありますか。
- 1 自信がある
  - 2 少し自信がある
  - 3 あまり自信がない
  - 4 全く自信がない
- ⑩ 現在住んでいる家の付近の人々と、付き合いはありますか。○をつけてください。
- 1 よく知っており、話しをよくする
  - 2 知っているが、あいさつする程度
  - 3 あまり知らない
  - 4 全く知らない
  - 5 関心がない
- ⑪ もしも、地震や水害、または火災などが起こった時、周りの人たちと声をかけあったり、助け合っ  
て避難することができますか。いずれかに○をつけてください。
- 1 必ずできる
  - 2 あまり自信はないが、できると思う
  - 3 あまり自信がなく、できないと思う
  - 4 できない
  - 5 わからない
- ⑫ このようなスポーツイベントが人とのつながりに役立つと思いますか。
- 1 非常に役立つと思う
  - 2 少しは役立つと思う
  - 3 あまり役立たないと思う
  - 4 まったく役立たないと思う
  - 5 わからない
- ⑬ 人とのつながりを作るイベントについてどう思われますか。
- 1 たくさんあった方がいいと思う
  - 2 地域の自治会などの行事があるから十分だと思う
  - 3 あまりなくてもその時にあればなんとかなるのでいらないと思う
  - 4 わからない
  - 5 その他（ ）
- ⑭ そのほか、ご意見がございましたらご自由にお書きください。  
（ ）

ご協力、ありがとうございました